

2021 年度事業報告

(自 2021 年 1 月 1 日 ～ 至 2021 年 12 月 31 日)

一般社団法人日本医療薬学会

2021 年度は、3 月に実施された代議員選挙を経て 315 名が新たな代議員として就任した。コロナ禍も 2 年度目を迎え、感染状況が拡大や縮小を繰り返す中、計画通りに実施できた活動と計画変更を余儀なく強いられた活動があったが、後者については感染対策を講じながら事業の円滑な遂行を図った。

本学会最大の活動である第 31 回年会は、10 月 9 日、10 日に熊本市の熊本城ホールを中心とした複数の会場での開催準備を進めてきたが、同市においては 8 月から 9 月にかけて新型コロナウイルスに係るまん延防止等重点措置が講じられたため、急遽 WEB 開催（ライブ及びオンデマンド配信）に変更した。二年ぶりに一堂に会して活発なディスカッションを行える機会を逸したが、一方では 10,800 名を超える参加者があり、本学会の年会として初めて 10,000 人を超える参加者を迎え盛會に終えることができた。同様に医療薬学公開シンポジウムや専門薬剤師制度の研修会、臨床研究セミナーなど WEB 開催（ライブ配信）された他の企画についても多くの参加者があった。また、ほとんどの委員会も WEB 開催されたが、従来比で開催頻度が増加するなど移動を伴わずに会議に参加できるメリットが活かされ、充実した学術活動につながった傾向も見られた。

2020 年 9 月に開催予定であった創立 30 周年記念シンポジウムに代えて、2021 年 7 月に歴代の会頭経験者を招いて創立 30 周年記念座談会を開催した。その記録を含め、本学会の設立時から 30 年間にわたる一連の活動記録を取りまとめた創立 30 周年記念誌を 12 月に刊行した。

2020 年 5 月に発足した現行の役員体制下においては、社員総会を対面方式で開催することが叶わず、やむなく書面決議や委任状又は議決権の行使をもって決議を進めたところであるが、第 14 回定時社員総会を経て新たに就任する新役員並びに委員会体制により、2022 年度以降も本学会活動のさらなる活性化と医療薬学領域の発展が期待される。

2021 年度事業報告の概要は以下のとおりである。

〔1〕事業の部

1. 会員数 (2021 年 12 月 31 日現在)

正会員：13,750 名、 学生会員：230 名、 賛助会員：14 社・団体
名誉会員：27 名

2. 医療薬学専門薬剤師制度の認定数 (2022 年 1 月 1 日現在)

医療薬学専門薬剤師：1,646 名 (前年同日の認定数：1,609 名)

医療薬学指導薬剤師：872 名 (前年同日の認定数：873 名)

医療薬学専門薬剤師研修施設：314 施設 (前年同日の認定数：263 施設)

3. がん専門薬剤師制度の認定数 (2022 年 1 月 1 日現在)

がん専門薬剤師：731 名 (前年同日の認定数：648 名)

がん指導薬剤師：315名（前年同日の認定数：265名）

がん専門薬剤師研修施設：334施設（前年同日の認定数：304施設）

4. 薬物療法専門薬剤師制度の認定数（2022年1月1日現在）

薬物療法専門薬剤師：52名（前年同日の認定数：41名）

薬物療法指導薬剤師：54名（前年同日の認定数：48名）

薬物療法専門薬剤師研修施設：237施設（前年同日の認定数：202施設）

5. 地域薬学ケア専門薬剤師制度の認定数（2022年1月1日現在）

地域薬学ケア専門薬剤師（暫定認定）：65名（前年同日の認定数：67名）

地域薬学ケア専門薬剤師（がん）（暫定認定）：163名（前年同日の認定数：157名）

地域薬学ケア専門薬剤師研修施設（基幹施設）：185施設

（前年同日の認定数：169施設）

地域薬学ケア専門薬剤師研修施設（連携施設）：199施設

（前年同日の認定数：207施設）

6. 会議・委員会開催状況

社員総会2回（定時・臨時各1回）、定例理事会6回、理事会事前打合せ6回、予算会議1回、監事監査1回、公益法人化等将来計画検討委員会2回、2022-2023年度役員候補者選挙当選者による会合1回、総務委員会1回、専門薬剤師制度運営委員会5回、専門薬剤師制度支援システム検討WG3回、専門薬剤師制度支援システム検討WG事前打合せ1回、専門薬剤師認定試験事前打ち合わせ1回、専門薬剤師認定試験小委員会9回、医療薬学専門薬剤師認定委員会3回、がん専門薬剤師認定委員会4回、がん専門薬剤師試験小委員会3回、がん専門薬剤師能力向上小委員会6回、がん専門薬剤師研修小委員会5回、がん専門薬剤師研修小委員会WG1回、薬物療法専門薬剤師認定委員会1回、薬物療法専門薬剤師研修小委員会事前打合せ1回、薬物療法専門薬剤師研修小委員会1回、薬物療法集中講義企画・運営小委員会6回、地域薬学ケア認定委員会事前打合せ1回、地域薬学ケア専門薬剤師認定委員会7回、地域薬学ケア専門薬剤師認定委員会コアメンバー会議4回、地域薬学ケア認定委員会事後打合せ1回、地域薬学ケア専門薬剤師研修小委員会4回、研究推進委員会1回、企画・シンポジウム委員会1回、医療薬学教育委員会2回、広報・出版委員会1回、国際交流委員会1回、医療薬学編集委員会1回、中小療養病床専門薬剤師制度検討WG2回、功績賞・奨励賞等選考委員会1回、学術関連賞選考委員会3回、日本医療薬学会賞等選考小委員会1回、医療薬学誌論文賞選考小委員会1回、JPHCS誌論文賞選考小委員会1回、Postdoctoral award選考小委員会1回、情報システム検討ワーキンググループ1回、医療薬学学術委員会1回、医療薬学学術第2小委員会1回、年会あり方検討委員会3回、年会長候補者推薦委員会1回、選挙制度委員会1回、役員候補者選挙管理委員会1回、代議員選挙管理委員会1回、厚労省面談・地域薬学ケア専門薬剤師研修会報告1回、地域薬学ケア専門薬剤師連携研修に関する研修会打合せ2回、地域薬学ケア専門薬剤師認定審査に係る打合せ1回、地域薬学ケア専門薬剤師制度整備に係る打合せ1回、地域薬学ケア・研修の中断中止に関する打合せ1回、地域薬学ケア・論文発表の審査基準に関する打合せ1回、地域薬学ケア専門薬剤師マッチング委託に関する事前打合せ1回、地域薬学ケア専門薬剤師認定制度に関する打合せ4回、地域薬学ケア専門薬剤師コアメンバー打ち合わせ3回、研修会に

係る打合せ 2 回、がん集中教育講座に係る打合せ 1 回、がん専門薬剤師集中教育講座 配信システム打ち合わせ 1 回、がん専門薬剤師集中講義 合同協議 2 回、専門薬剤師制度に関する意見交換会 1 回、専門薬剤師制度研修認定申請に関する話し合い 1 回、第 31 回年会に係る打合せ 2 回、第 32 回年会に係る打合せ 1 回、第 33 回年会コンベンション会社の選定に係るヒアリング 1 回、医療薬学専門薬剤師・臨床実績審査に係る打合せ 1 回、資格の切り替えに関する検討 1 回、専門薬剤師認定試験に関する打合せ 2 回、一人薬剤師に関する検討 1 回、30 周年記念座談会に関する打合せ 1 回、薬物療法専門薬剤師全体会議（仮）に向けた話し合い 1 回、日病薬・がん薬物療法専門薬剤師認定制度の新設に係る説明 1 回、固定資産台帳修正打合せ 1 回

7. 各委員会活動報告

(1) 総務委員会

- 1) 2022 年度事業計画の草案を検討した。
- 2) 慶弔規程の策定及び日本医療薬学会の共催・後援に関する取扱細則の改正を行った。
- 3) 事務局職員の勤務体制を見直した。
- 4) 事務局職員の人事管理・労務等を調査した。

(2) 財務委員会

- 1) 2020 年度決算報告書を取りまとめた。
- 2) 予算の執行状況と適切性を監視した。
- 3) 年会の組織委員会に参画し、年会長と理事会及び学会事務局との連携を推進した。
- 4) 2022 年度予算案を作成した。

(3) 広報・出版委員会

1) 広報用リーフレットの改訂

学生や若手薬剤師の新規入会促進への活用を目的とした学会紹介用リーフレットの改訂版を昨年度作成し、今年度は見やすさや情報のアップデートを行い、全国の薬学部をはじめ関連機関へ配布した。

2) その他

① ホームページの改編（会員ページ、役員ページの整備等）

- ・ 本学会の諸規程類の掲載について検討を行った。
- ・ その他、必要事項の追加、変更等
 - i) 学会賞のページの見直しについて検討した。
 - ii) イベント情報の掲載について表示方法を検討した。

② スマホ用 WEB サイト、SNS 等の活用については、今後の検討事項とした。

③ メールを活用した会員への広報活動内容について協議した。

(4) 企画・シンポジウム委員会

1) 医療薬学公開シンポジウムの開催

第 77 回、第 79 回、第 81 回から第 84 回までの 6 回の公開シンポジウムの開催および開催支援を行った。開催に際し、新型コロナウイルス感染症拡大防止に十分に配慮しての実施となった。なお、第 77 回、第 79 回については、新型コロナウイルス感染症の急速な拡

大により 2020 年度の開催が延期されたことによる 2021 年度開催となった。

- ① 第 77 回 岐阜県、北市清幸（岐阜薬科大学）（2020 年度開催予定の延期）
開催日 2021 年 1 月 24 日（日）、会場 岐阜薬科大学・WEB 開催（ライブ配信）
テーマ 『医療環境の変化に対応した薬剤師職能の発揮 ～成果創出にどう繋げるか～』
- ② 第 79 回 岩手県紫波郡、工藤賢三（岩手医科大学）（2020 年度開催予定の延期）
開催日 2021 年 6 月 13 日（日）、会場 WEB 開催（ライブ配信）
テーマ 『これからの地域における薬剤師の役割を考える』
- ③ 第 81 回 宮崎市、池田龍二（宮崎大学医学部附属病院）
開催日 2021 年 8 月 7 日（土）、会場 WEB 開催（ライブ配信）
テーマ 『がん薬物療法・緩和医療における薬剤師の役割～広がる薬剤師の多職種連携・病診薬連携～』
- ④ 第 82 回 広島市、松尾裕彰（広島大学病院）
開催日 2021 年 8 月 28 日（土）、会場 広島県薬剤師会館・WEB 開催（ライブ配信）
テーマ 『AI・ICT と共存し歩む薬剤師業務の今後の展望』
- ⑤ 第 83 回 札幌市、福土将秀（札幌医科大学附属病院）
開催日 2021 年 10 月 17 日（日）、会場 WEB 開催（ライブ配信）
テーマ 『コロナ禍における薬剤師の役割と地域医療連携の充実化に向けた取り組み』
- ⑥ 第 84 回 埼玉県北足立郡、松田佳和（日本薬科大学）
開催日 2021 年 11 月 14 日（日）、会場 WEB 開催（ライブ配信）
テーマ 『薬剤師によるがん治療の最前線』

2) 2022 年度の医療薬学公開シンポジウムの開催方法・計画の検討

2022 年度の公開シンポジウムの開催方法・計画等について検討した。

3) 年会に係わるシンポジウムへの演題と登録

本学会の各委員会が企画する第 31 回年会のシンポジウム等の演題登録に際して、当委員会が窓口となって各委員会への登録を募った。

(5) フレッシュヤーズ活性化委員会

1) COVID-19 感染拡大の影響を受け第 4 回フレッシュヤーズ・カンファレンスの開催を前年度より延期し下記の期日に WEB 開催（ライブ配信）した。

- ・ 実行委員長 中村敏明（大阪医科薬科大学薬学部 教授）
- ・ 日 程 2021 年 6 月 7～13 日 演題閲覧
2021 年 6 月 13 日 質疑応答

2) 第 5 回フレッシュヤーズ・カンファレンスの実行委員長を決定した。

- ・ 実行委員長 伊藤清美（武蔵野大学薬学部 教授）
- ・ 開催予定日 2022 年 6 月 12 日（日）
- ・ 会 場 武蔵野大学 武蔵野キャンパス（東京都西東京市）

(6) 会員委員会

1) 会費の遡及納入に係る嘆願書及び休会届を受け付けて審議し、対応を検討の上、理事会

に諮った。

- 2) 2022 年度分会費の納入依頼を、学会ホームページ、医療薬学第 47 卷 11 号及び同 12 号に掲載するとともに、会員宛にメールを配信して周知した。

(7) 医療薬学編集委員会

- 1) 「医療薬学」第 47 卷 1 号～12 号を編集・発行した。
 - ① 2021 年 1 月から 12 月までに 127 編（うち非学会員から 13 編）の論文投稿を受付け、同期間内に 79 編を採択した。（採択率：62.2%）
 - ② 第 47 卷 1 号～12 号に 79 編の論文を掲載した。
内訳：一般論文 21 編、ノート 58 編（うち英文論文は 3 編）
- 2) 医療薬学編集委員会を開催し、現状の情報共有と今後の方針について議論し確認した。また、医療薬学誌の活性化について意見交換した。

(8) JPHCS 編集委員会

- 1) 英文誌 Journal of Pharmaceutical Health Care and Sciences (JPHCS) の第 7 卷(2021 年)を編集・発行した。
 - ① 第 7 卷(2021 年)に 48 編の論文を掲載した。これは、2020 年の 27 編と比較して 21 編(78%) の増加である。
内訳：Research article 36 編、Case report 10 編、Short Report 2 編
 - ② 2021 年 1 月から 12 月までに 96 編の論文投稿を受付けた。これは、2020 年の 84 編と比較して 12 編(14%) の増加である。
内訳：Research article 77 編、Case report 9 編、Review 4 編、Short report 6 編
 - ③ みかけの採択率（①/②）は 50.0%であった。

(9) 専門薬剤師制度運営委員会

- 1) 制度変更された、「がん専門・指導薬剤師」の運用を開始した（2021 年 1 月より）。また、旧規定の更新要件で専門・指導薬剤師を更新できなかった者を対象に、更新における過渡的措置の認定審査を実施した（がん専門薬剤師制度及び薬物療法専門薬剤師制度）。
- 2) 医療薬学専門薬剤師制度、がん専門薬剤師制度、薬物療法専門薬剤師制度において、連携研修施設制度を開始した。
- 3) 小委員会の活動
 - ① 薬物療法集中講義企画・運営委員会
 - i) 2021 年第 1 回専門薬剤師認定取得のための薬物療法集中講義【Web 開催（オンデマンド配信）（2021 年 2 月 22 日(月)～3 月 21 日(日)）】の企画・運営を行なった。
 - ii) 2021 年第 2 回専門薬剤師認定取得のための薬物療法集中講義【Web 開催（オンデマンド配信）（2021 年 12 月 1 日(水)～2022 年 1 月 31 日(月)）】の企画・運営を行なった。
 - ② 専門薬剤師認定試験小委員会
2021 年度専門薬剤師認定試験(第 5 回薬剤師生涯学習達成度確認試験)を実施した。今年度より、薬剤師生涯学習達成度確認試験の受験者にも日本医療薬学会専門薬剤師

の認定申請が認められることとなったため、日本医療薬学会専門薬剤師の認定申請者の一部は薬剤師生涯学習達成度確認試験を受験した。専門薬剤師認定試験の概要は以下の通り。

日時：2021年7月4日（日）

申請者数 68名、受験者数 67名、合格者数 63名（合格率 94.0%）

③ 中小療養病床専門薬剤師認定制度検討WG

中小療養病床専門薬剤師認定制度のあり方を検討した。

④ 専門薬剤師制度支援システム検討WG

専門薬剤師制度支援システムの構築を進めた。

(10) 医療薬学専門薬剤師認定委員会

1) 医療薬学専門薬剤師制度の専門薬剤師、指導薬剤師、研修施設の認定者及び施設数は次のとおり。

① 医療薬学専門薬剤師：新規認定 102名、更新認定 250名、更新保留 5名

2021年7月4日（日）に専門薬剤師認定試験を実施

② 医療薬学指導薬剤師：新規認定 34名、更新認定 117名

③ 医療薬学専門薬剤師研修施設：新規認定 基幹施設 39施設、連携施設 18施設、
更新認定 基幹施設 44施設、連携施設 1施設

2) 医療薬学専門薬剤師（新規・更新認定申請）に係る臨床実績審査判定内規について整備をおこなった。

3) 医療薬学専門薬剤師の申請書類、規程及び細則、Q&Aの内容と文言等の修正をおこなった。

4) 小委員会の活動

本制度の研修到達目標、研修ガイドライン、患者アウトカムや医療の質向上に寄与した事例報告書等の修正が今年は特に無かったため、主だった活動はおこなわなかった。

(11) がん専門薬剤師認定委員会

1) 2021年度から新制度に移行した。がん専門薬剤師制度の専門薬剤師、指導薬剤師、研修施設の認定者及び施設数は次のとおり。

①がん専門薬剤師：新規認定 82名、更新認定 127名、更新保留 10名

②がん指導薬剤師：新規認定 31名、更新認定 41名、更新保留 1名

③がん専門薬剤師研修施設：新規認定 基幹施設 20施設、連携施設 25施設、
更新認定 基幹施設 14施設

2) 教育啓発活動として、第31回日本医療薬学会年会でシンポジウムを開催、日本病院薬剤師会との合同でがん専門薬剤師集中教育講座をWEB開催（オンデマンド配信）、第13回日本がん薬剤学会学術大会において教育セミナーを共催、がん専門薬剤師全体会議はハイブリッド開催を行った。症例の書き方スキルアップセミナー、アドバンスト研修会はそれぞれ2022年2月にWEB開催（ライブ配信）予定である。

3) 小委員会の活動

① がん専門薬剤師試験小委員会（5回開催）

がん専門薬剤師認定試験問題を作成し、2021年5月23日（日）に認定試験を実施した。

受験者数 102 名中 85 名 (83.3%) を合格とした。

② がん専門薬剤師研修小委員会 (5 回開催)

i) がん専門薬剤師集中教育講座を 1 回 WEB 開催 (オンデマンド配信) で行った。(日本病院薬剤師会と合同開催) 2021 年 11 月 1 日～2022 年 1 月 7 日 (受講申込者は 2,872 名)

ii) 他学会が実施する講習会・教育セミナーの受講単位を認定した。

iii) がん専門薬剤師の研修ガイドライン及びコアカリキュラムを更新した。

iv) 第 1 回がん介入症例の書き方スキルアップセミナー(WEB 開催(オンデマンド配信))を 2022 年 2 月 20 日 (日) に開催予定である。

③ がん専門薬剤師能力向上小委員会 (6 回開催)

i) 2021 年度の第 8 回がん専門薬剤師全体会議を名古屋において 5 月 8 日 (土) に WEB 併用 (ライブ配信) で開催した。(現地参加 26 名、WEB 参加 463 名)

ii) 第 8 回アドバンスト研修会を 2022 年 2 月 26 日 (土) に WEB 開催 (ライブ配信) 予定である。

(12) 薬物療法専門薬剤師認定委員会

1) 薬物療法専門薬剤師制度の専門薬剤師、指導薬剤師、研修施設の認定者及び施設数は次のとおり。

① 薬物療法専門薬剤師 (新規認定) の申請者及び認定者数

申請者数 27 名、認定者数 14 名

② 薬物療法指導薬剤師 (新規認定) の申請者及び認定者数

申請者数 6 名、認定者数 6 名

③ 薬物療法専門薬剤師 (更新認定) の申請者及び認定者数

申請者数 5 名、認定者数 5 名

④ 薬物療法指導薬剤師 (更新認定) の申請者及び認定者数

申請者数 3 名、認定者数 3 名

⑤ 薬物療法専門薬剤師研修施設の更新申請及び認定施設数

申請施設数 14 施設、認定施設数 14 施設 (基幹施設 13 施設、連携施設 1 施設)

⑥ 薬物療法専門薬剤師制度の新規・更新申請に係る緩和措置による追加提出

薬物療法専門薬剤師制度の緩和措置対象者は 4 名 (薬物療法専門薬剤師更新認定者 2 名、薬物療法指導薬剤師認定者 3 名、内 1 名は専門薬剤師と指導薬剤師資格を重複して取得)

2) 申請時の適切な症例報告のために、第 31 回年会ワークショップ「薬物療法専門薬剤師申請症例書き方」を開催した。

3) 小委員会の活動

薬物療法専門薬剤師研修ガイドラインの改定を行った。

(13) 地域薬学ケア専門薬剤師認定委員会

1) 地域薬学ケア専門薬剤師制度の専門薬剤師、研修施設の認定者及び施設数は次のとおり。

① 地域薬学ケア専門薬剤師新規暫定認定者

3 名

- ② 地域薬学ケア専門薬剤師「がん」新規暫定認定者 9名
 - ③ 地域薬学ケア専門薬剤師研修施設（基幹施設） 19施設
 - ④ 地域薬学ケア専門薬剤師研修施設（連携施設） 15施設
- 2) 地域薬学ケア専門薬剤師制度における研修者と基幹施設のマッチングに関するWEB研修会として「地域薬学ケア専門薬剤師制度にかかるマッチング調整業務および申請手順等に関する説明会」を日本薬剤師会・都道府県薬剤師会と協力して実施した。
- 3) 地域薬学ケア専門薬剤師研修コアカリキュラム及びガイドラインの整合性、認定要件の内容整備について検討した。
- 4) 地域薬学ケア専門薬剤師研修小委員会の活動
地域薬学ケア専門薬剤師制度における連携研修に関する資料の整備および症例サマリーの書き方等について検討した。
- 5) 令和3年度認定薬局等整備事業（専門性の高い薬局薬剤師の養成推進事業）を厚生労働省から受託し、以下の事業を実施した。
- ① 「地域薬学ケア専門薬剤師制度 研修充実のための全国研修会」
WEB開催（ライブ及びオンデマンド配信）
- 6) 各都道府県薬剤師会の協力の下で、本制度の連携研修のマッチングを図った。
- (14) 功績賞・振興賞選考委員会
選考規程及び内規に基づき、以下の授賞候補者を決定した。
- 1) 功績賞（受賞者0名）
 - ・ 該当者なし
 - 2) 振興賞（受賞者2名）
 - ・ 相羽 恵介（戸田中央総合病院 腫瘍内科）
 - ・ 中澤 一純（元日本医療薬学会 事務局長）
- (15) 学術関連賞選考委員会
- 1) 奨励賞、論文賞、Postdoctoral Award 各賞にかかる選考規定および内規を改定（応募に必要な推薦者を複数名から2名に変更）し、多くの会員からの応募を期待することとした。
 - 2) 従前から、各賞審査表の審査項目と応募書類の記載項目に齟齬があるとの指摘があり、今回、審査項目を反映するよう応募書類を改定した。
 - 3) 日本医療薬学会賞等選考小委員会、Postdoctoral Award 選考小委員会、医療薬学誌論文賞選考小委員会及びJPHCS誌論文賞選考小委員会の各委員会にて一次選考された候補者について、二次選考を行い、下記の候補者を決定した。
 - ① 日本医療薬学会賞（受賞者1名）
 - ・ 井関 健（北海道医療大学 薬学部）
研究題目 トランスポーターが関与する薬物動態と病態変化の影響
 - ② 学術賞（受賞者2名）
 - ・ 今村 知世（昭和大学 先端がん治療研究所）
研究題目 抗がん薬の曝露量と有効性／毒性との相関研究と曝露量規定因子に基づく個別化投与の確立

- ・ 川上 和宜 (公益財団法人がん研究会有明病院 薬剤部)
研究題目 がん患者へのファーマシューティカルケアの実践
- ③ 奨励賞 (受賞者 3 名)
 - ・ 池村 健治 (大阪大学医学部附属病院 薬剤部)
研究題目 薬物動態学的アプローチを基盤としたがん薬物療法の副作用回避に向けたエビデンス構築
 - ・ 今井 俊吾 (北海道大学大学院薬学研究院 薬物動態解析学研究室)
研究題目 データマイニング手法とビッグデータの活用による臨床薬学研究の解析アプローチの探求
 - ・ 平井 啓太 (静岡県立大学 薬学部)
研究題目 精密医療の実現を目指した治療層別化マーカーの構築
- ④ Postdoctoral Award (受賞者 10 名)
 - ・ 相澤 風花 (徳島大学病院 薬剤部)
学位論文題目 反復ストレス暴露による慢性疼痛形成機構における脳内脂肪酸-GPR40/FFAR1 の関与
 - ・ 石川 修平 (北海道大学病院 精神科神経科)
学位論文題目 クロザピン誘発性流涎症のリスク因子の解明と治療法の探索
 - ・ 石原 慎之 (島根大学医学部附属病院 薬剤部)
学位論文題目 高齢者における感染症治療の個別最適化を目指したクリニカルファーマコメトリクスの実践：抗菌薬適正使用による薬剤耐性対策へ向けて
 - ・ 公文代 将希 (東北大学病院 薬剤部)
学位論文題目 哺乳動物細胞株による高活性シクトロム P450 発現系の構築と遺伝子多型バリエーション酵素機能解析への応用
 - ・ 柴田 海斗 (浜松医科大学医学部附属病院 薬剤部)
学位論文題目 固相化トリプシンを用いたヒト血清中セツキシマブの絶対濃度測定のための簡易で迅速な LC-MS/MS 法の開発
 - ・ 成田 勇樹 (熊本大学病院 薬剤部)
学位論文題目 慢性腎臓病患者のポリファーマシーに対する総合的戦略に関する研究：プレイオトロピック効果による酸化ストレス制御の治療応用
 - ・ 二木 悠哉 (金沢大学附属病院 薬剤部)
学位論文題目 Human monocarboxylate transporter1, 4 (hMCT1, 4) の基質選択性の違いを決定する分子メカニズムに関する研究
 - ・ 馬淵 賢幸 (同志社女子大学 薬学部)
学位論文題目 ポリファーマシーの実態解析と解消に向けたデータベース研究
 - ・ 水野 貴仁 (公立陶生病院 薬剤部)
学位論文題目 基礎データと臨床データの融合によるキナーゼ阻害と有害事象の関連性の可視化とその臨床応用
 - ・ 山崎 伸吾 (千葉大学医学部附属病院 薬剤部)
学位論文題目 救急集中治療領域患者の薬物動態に関する研究

⑤ 医療薬学誌論文賞（受賞論文3編）

- ・ 論文題目 日本人悪性リンパ腫患者におけるリツキシマブの先行バイオ医薬品とバイオ後続品の有効性・安全性の評価
著者 伊勢崎竜也, 宮川慧子, 平田一耕, 成田健太郎, 舟越亮寛
(医療薬学 Vol. 46, No. 3, 126-137)
- ・ 論文題目 病診薬連携で行う吸入支援のアウトカムの評価
著者 鋒山香苗, 杉本充弘, 米澤淳, 寺尾真琴, 山本浩貴, 吉田優子, 朝倉佳代子, 深津祥央, 谷村和哉, 佐藤晋, 松本久子, 中川俊作, 北田徳昭, 平井豊博, 松原和夫
(医療薬学 Vol. 46, No. 8, 405-413)
- ・ 論文題目 経口抗がん薬治療における情報共有ツールおよびチーム基盤型学習を用いた病診薬連携の有用性の評価
著者 植田梨沙, 丹田雅明, 伊藤雄大, 榎本彩花, 飯田真之, 水田直美, 山本和宏, 榎本博雄, 大村友博, 矢野育子
(医療薬学 Vol. 46, No. 12, 681-691)

⑥ JPHCS 誌論文賞（受賞論文3編）

- ・ 論文題目 Comparison of various pharmaceutical properties of clobetasol propionate cream formulations - considering stability of mixture with moisturizer -
著者 Yoshihisa Yamamoto, Yoshinori Onuki, Toshiro Fukami and Tatsuo Koide
(JPHCS 2020 6:1)
- ・ 論文題目 Evaluation of the efficacy of drug treatment based on measurement of the oxidative stress, using reactive oxygen metabolites and biological antioxidant potential, in children with autism spectrum disorder and attention deficit hyperactivity disorder
著者 Taisuke Kitaoka, Masahito Morimoto, Toshiaki Hashimoto, Yoshimi Tsuda, Tadanori Nakatsu and Shojiro Kyotani
(JPHCS 2020 6:8)
- ・ 論文題目 Prediction of the permeability of antineoplastic agents through nitrile medical gloves by zone classification based on their physicochemical properties
著者 Toyohito Oriyama, Takehito Yamamoto, Katsuhiko Nara, Yohei Kawano, Katsuyoshi Nakajima, Hiroshi Suzuki and Takao Aoyama
(JPHCS 2020 6:23)

(16) 医療薬学教育委員会

- 1) 第31回年会における日本薬学生連盟とのシンポジウムの実施
第31回年会において、日本薬学生連盟と共催によるシンポジウムを行った。
- 2) 本委員会活動の方向性を検討

上記のシンポジウムを実施した上で、本委員活動の方向性について議論した。本委員会は、医療系薬学教員によって構成されているが、日本薬学生連盟をはじめ、薬学生に対して医療薬学会及び本学会の方針や会員の活動を理解するための橋渡し（相談窓口）となる役割を担う必要があり、具体的な活動内容について今後検討していくこととなった。

(17) 国際交流委員会

1) 年会における英語セッションの企画

第31回年会の2日目である2021年10月10日（日）午前、International Session（口頭）を、午後、国際シンポジウム1 & 2を開催した。また、International Session（ポスター）の募集を行った。

・シンポジウムタイトル

『Challenge and Development of Pharmaceutical Health Care and Sciences for the Next Decade 1&2』

第1部 中国、アメリカ、オーストラリア及び日本からの講師4名の講演

第2部 日本人5名による英語での講演

・International Session：口頭7題、ポスター25題（中国6題、韓国1題を含む）の一般発表があった。

2) 海外研修制度の検討

・2021年度海外研修等助成員の募集を行ったが、応募者はなかった。

・2022年度海外研修等助成員の募集要項を作成し、学会誌12月号及び学会HPに募集案内を行った（締切：2022年3月10日）。

(18) 医療薬学学術委員会

1) 小委員会の活動

① 医療薬学学術第1小委員会（2021年度・継続、松尾宏一委員長）

研究課題名：がん患者に対する薬剤師による副作用マネジメントの薬学的および経済学的な効果に関する研究

・「抗がん薬治療の分野で薬剤師はどのような業務を現在担っているのかの実態調査」のためのアンケート項目の検討と実施案を作成し、各種のがん診療拠点病院、厚生労働省指定の特定機能病院、都道府県指定の地域医療支援病院のいずれかに該当する939施設に回答を依頼し354施設（37.7%）から回答を得た。その結果については現在精査中であり内容の解析後、薬剤師が現在担っている業務の実態を明らかにする。

② 医療薬学学術第3小委員会（2021年度・継続、宮崎雅之委員長）

研究課題名：がん領域における薬剤師による臨床研究支援プラットフォーム構築

・愛知県内における活動として、がん領域に従事し、臨床研究の経験が浅い薬剤師、臨床研究の実践に必要なクリニカルクエストの立案、文献調査、多施設共同研究計画書の作成、倫理委員会の申請・承認に係る支援体制を整備した。

・がん患者の治療効果およびQuality of Life等に関する多施設共同での観察研究を年間3題以上実施することを目標とし、研究課題毎にグループを構成して月に1回（土曜日午後）例会を開催し討議した。またメーリングリストを活用し継続的な討議および情報を共有し、また立案した研究課題を解決すべく、調査研究を継続的に実施した。

③ 医療薬学学術第4小委員会（2021年度・継続、米澤 淳委員長）

研究課題名：医療現場における薬物相互作用マネジメント能力育成に関する研究

・薬物相互作用エビデンスの活用促進を目指し、2019年に医療薬学学術第一小委員会で作成した「薬物相互作用マネジメントの手引き」に基づく解説動画を作成している（本学会ホームページで公開する予定）。

・薬物相互作用エビデンスの創出のため、第31回年会において日本薬剤学会の薬物相互作用・個別化医療フォーカスグループと連携し、シンポジウム「個別化医療において活用される薬物動態の臨床および基礎研究」を共催した。

④ 医療薬学学術第5小委員会（2021年度・継続、石塚雅子委員長）

研究課題名：専門認定を目指す薬剤師育成のための症例データベースの構築

・これまでシステム構築に係るベンダーを交えた検討を進めたが、各専門薬剤師制度間で症例の記載様式の統一が図れないことや、申請に係るシステム化が進められていることより、計画当初に見込んでいた状況にはならないため、本小委員会で目指していたシステム構築が困難であると判断し、本小委員会の活動終了を希望する。

*本小委員会活動の継続可否については、学術委員会にて審議し判断する。

⑤ 医療薬学学術第1小委員会（2021年度・新規、須永登美子委員長）

研究課題名：臨床業務における薬剤師による有害事象報告教育基盤の構築

・2021年12月に研究施設において、有害事象報告に対する意識とCase reportの教育体制についてのアンケート調査を実施した。

・3つの共同施設で標準化した指導を実施することを目的にCase report作成に必要な9種類の教育動画シリーズを作成し、5つのシリーズを配信した。（シリーズ①有害事象報告の概論、②副作用報告ガイドライン、③CAREガイドライン、④Naranjoスコアについて、⑤DIPSについて）

⑥ 医療薬学学術第2小委員会（2021年度・新規、渡邊裕之委員長）

研究課題名：免疫チェックポイント阻害薬の他施設共同患者レジストリを用いた、免疫関連有害事象の早期発見に資する研究

・活動目標の共有、研究課題を具体化するための調査・研究、啓発、研修、研究システムの構築など、ガイドライン等の策定などの実践的な活動、および研究成果を学会発表や論文文化に繋げることの確認と多施設共同観察研究を開始するための情報収集等の準備を進めた。

2) 医療薬学学術小委員会の新規募集

・2022年4月度より発足する医療薬学学術小委員会の研究テーマとして、下記の要件を設けて公募手続を進めた。

① 本学会として取り組むべき、または推進すべき活動

② 各領域、疾患群における医療薬学研究及び科学的薬物療法のエビデンス構築につながる活動

③ 多施設共同研究、分野連携型の医療薬学研究の基盤整備に関する活動

(19) 研究推進委員会

1) 臨床研究セミナーの開催

① 第1回臨床研究セミナー『臨床研究を始めよう』を2021年4月18日（日）にWEB

開催（ライブ配信）した。

- ② 第2回臨床研究セミナー『連携して臨床研究を進めよう』を2022年4月17日（日）にハイブリッド開催で企画した。

2) 年会での企画

- ① 第31回年会でシンポジウム『研究活動と臨床能力の向上を目指して』を開催した。
- ② 第32回年会でシンポジウム『優れた研究能力と専門性を備えた次世代リーダーの育成を目指して』を演題登録した。

(20) 製薬企業連携検討ワーキング

医療機関と製薬企業双方に関心の高いテーマとして、「販売情報提供ガイドラインは情報共有を阻害しているか？～GL後の情報提供の在り方と臨床現場の情報ニーズ」のタイトルにて、第31回日本医療薬学会年会（熊本）でシンポジウムを企画し開催した。

(21) 年会長候補者推薦委員会

第35回日本医療薬学会年会（2025年開催）の年会長候補者として、矢野育子（神戸大学医学部附属病院 教授・薬剤部長）を選出した。

(22) 選挙制度委員会（役員候補者選挙管理委員会、代議員選挙管理委員会）

1) 2021-2022年度代議員の選任

2020年度に実施した2021-2022年度代議員の選挙結果に対する異議申立てはなかったため、選挙選出代議員全員（315名）が2021-2022年度の本学会代議員として確定した。

2) 2022-2023年度役員選任

役員候補者選出規程に基づき、2022-2023年度役員候補者選挙を実施し、理事候補者14名および監事候補者1名を選出した。役員候補者推薦委員会による推薦役員候補者を加えて、第14回定時社員総会（2022年3月開催予定）の審議を経て役員が確定する見込みである。

(23) 年会あり方検討委員会

新型コロナウイルス感染症の終息が見通せない中で、第31回（熊本市）及び第32回（高崎市）年会の開催形態・方法に関する協議を行った。また、厳しい経済情勢の中、年々多様化、拡大する会員からのニーズに対応し、質を維持しながら持続的かつ安定的に年会を運営するために、年会の運営体制に関する種々の協議を行った。

(24) 創立30周年記念事業委員会

2021年7月4日（日）に歴代会頭を迎え、パレスホテル東京において創立30周年記念座談会を開催した。また、創立30周年の記録を綴った記念誌を12月に刊行し、併せて学会ホームページを通して電子的な情報で会員に公表した。

(25) Web研修会のあり方検討ワーキンググループ

Web研修会のあり方について、各委員長、副会長等での意見交換会を開催し、本学会の研修会等の開催状況（開催規模、開催形態、情報の配信が主体か意見交換が主体か、ライブ配

信やオンデマンド配信の要否、配信品質、双方向性、議論のしやすさ、費用、単位化の方法、出席確認等)の把握と共有を行った。

(26) 情報システム検討ワーキンググループ

- 1) WEB 会議システム用機材の導入について検討した。
- 2) ペーパーレス会議用の機材類の導入について検討した。

(27) 公益法人化等将来計画検討委員会

本委員会は、本学会事業の継続性を担保し本学会領域の持続的な発展に資するため、学術団体としての運営方針や組織体制のあり方を提言としてまとめることを目的として設立された。本年度は、主に本学会の事務局体制のあり方並びに薬学系協議会の設立構想に対する本学会の考え方に関する協議を行った。

(28) 人事委員会

2021年4月及び5月に各1名の契約職員を正規職員に登用した。

8. 年会（第31回日本医療薬学会年会）

テーマ 『伝承と挑戦・進化～未来志向で医療薬学を俯瞰する～』

年会長 齋藤秀之（熊本大学病院 教授・薬剤部長）

開催日 2021年10月9日（土）・10月10日（日）※ライブ配信

2021年10月15日（金）～11月30日（火）※オンデマンド配信

開催方式 WEB 開催（ライブ及びオンデマンド配信）

1) 事業内容

年会長講演	1 題
会頭講演	1 題
特別講演	4 題
教育講演	2 題
招請講演	1 題(小林がん学術振興会助成)
International Symposium(国際シンポジウム)	2 セッション
年会企画シンポジウム	3 セッション
シンポジウム(公募)	67 セッション
ワークショップ	1 セッション
一般演題	1,013 題
i) 優秀演題候補	20 題
ii) Young Investigator Award (YIA) (学生)	9 題、 YIA (社会人) 17 題
iii) ポスター	967 題
International Session	31 題
メディカルセミナー	30 セッション

◆ 一般参加者数 10,835 名

2) 事業成果

第 31 回日本医療薬学会年会を、2021 年 10 月 9 日(土)・10 月 10 日(日)(ライブ配信)および 10 月 15 日(金)～11 月 30 日(火)(オンデマンド配信)を完全 WEB 開催で実施した。東京オリンピック延期の影響により 2 日間開催となり、当初は現地開催を前提としたハイブリッド開催(現地開催 2 日間+会期後オンデマンド配信)を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止および年会参加者の安全を最優先し、完全 WEB 開催への変更となった。第 30 回年会に引き続き WEB 開催ということで、視聴環境の充実、時間・経費負担軽減、オンライン視聴方法の活用など、参加者の WEB 開催への理解が進んだ結果、国内外から最終的に 1 万人を超える参加登録者数となった。

本年会のテーマは「伝承と挑戦・進化 ～未来志向で医療薬学を俯瞰する～」とした。日本医療薬学会の事業活動や年会等で醸成された学術的財産・知識を継承し、次世代と未来へ繋ぐためにより進化・挑戦することを企図し、医療薬学を伝承するとともに俯瞰し、未来に向けてさらに発展・進化させるための基盤構築について会員・参加者とともに議論し情報共有することを目的として本テーマを設定した。特別講演 1 では、熊本大学学長の小川久雄先生が「25 年にわたる多施設共同臨床研究からのエビデンス」と題して、これまでに実施した数多くの他施設共同研究のエビデンスに基づく循環器疾患領域における最新の薬物治療についてご講演いただいた。特別講演 2 では、佐賀大学医学部附属再生医学研究センター所長の中山功一先生が「バイオ 3D プリンタを用いた臓器再生の現状とこれから」と題して、バイオ 3D プリンタを用いた臓器再生の最前線についてご紹介いただき、将来的な臨床応用の展望についてご講演いただいた。特別講演 3 では、長崎大学名誉教授の佐々木均先生が、「医療薬学を基盤とした薬学的管理と製剤開発」と題して、薬学を臨床現場で活用する機会の重要性、さらに医療現場における薬剤師・薬学研究者の能力向上による医療薬学の発展についてご講演いただいた。特別講演 4 では、国立国際医療研究センター研究所所長の満屋裕明先生が、「AIDS 治療薬開発から B 型肝炎と COVID-19 治療薬の開発へ」と題して、長年に渡る HIV-1/AIDS 治療薬開発の歴史を振り返り、その創薬アプローチを基盤とした COVID-19 治療薬開発の新展開についてご講演いただいた。教育講演 1 では、独立行政法人国立病院機構 栃木医療センター内科の駒ヶ嶺順平先生が「これからの薬剤師の役割～薬学部卒の総合内科専門医の立場から～」と題して、薬剤師による介入が患者アウトカムをどのように変えうるかを evidence を踏まえてご解説いただき、薬学部卒の総合内科専門医の立場から薬剤師の役割についてご講演いただいた。教育講演 2 では、有限会社アップル薬局・I&H 株式会社の山本雄一郎先生が、「POS の実践～継続的な薬学管理のために～」と題して、POS の実践による継続的な薬学管理についての実例を挙げ、「薬剤使用期間中の患者フォローアップ」と POS の関係についてご講演いただいた。招請講演では University of Michigan College of Pharmacy の James G. Stevenson 先生が「Current Issues in Oncology Pharmacy Practice Management」と題して、米国のがん薬物療法における薬剤師の取り組みについて、医療費の管理、「Oncology Stewardship」の概念、抗がん剤暴露対策などの事例を通して、本邦のがん薬物療法における今後の薬剤師の役割について示唆に富むご提言をいただいた。

公募シンポジウムには 92 枠の応募があり、年会企画シンポジウムと合わせて最終的に 70 枠のシンポジウムを採択した。病院薬剤師をはじめ、薬局薬剤師、医師・看護師等の医療従事者、大学、企業、行政関係者など幅広い参加者が聴講できるよう、「診療」「教育」「研究」

「社会貢献」の領域のセッションをバランスよく構成した。年会企画シンポジウムとして、熊本地震からの復旧・復興における薬剤師の役割をテーマとした「災害時における薬剤師の役割 ～災害サイクル急性期から慢性期までの地域における医薬品供給体制を考える～」、「災害時における情報の収集、共有そして活用-最適な薬物療法を提供するための戦略」の2セッション、若手医療薬学研究者の育成をテーマとした「若手研究者が繋ぐ医療薬学異分野研究～独創的な研究展開を目指して～」を開催した。国際交流として International Symposium「Challenge and Evolution of Pharmaceutical Health Care and Sciences for the Next Decade-1, 2」を2枠（9題）開催し、中国、オーストラリア、日本における薬剤師による役割・取り組みについて紹介された。これらのセッションは完全WEB開催であったが、現地開催の臨場感を少しでも提供できるようライブ配信とした結果、常時3,000～4,000名程度の参加者が同時視聴していた。本年会ではさらに、オーガナイザー、座長およびシンポジストと参加者が双方向に意見交換と情報共有ができる場として”Meet The Expert”セッションを設け、シンポジウム後の活発な議論の場を提供し、初めての試みではあったが結果として述べ2,316名の参加者が”Meet The Expert”に参加し議論を深めていた。一般演題についてもWEB配信システムを用いたオンライン発表であったが、合計1,013題の演題、海外からの24演題の発表が行われた。例年通り優秀演題の選考をライブ配信にて実施し、口頭発表から4題を選出し、また、年会企画としてYoung Investigator Award (YIA)を設置し、口頭発表から9題を選出し表彰した。ワークショップでは「薬物療法専門薬剤師申請症例書き方」と題して、薬物療法専門薬剤師の申請に必要な症例報告の書き方についての解説が行われた。また、年会企画として、WEB開催配信サイト内に特設ページを開設し、熊本大学病院災害医療教育研究センター長の笠岡俊志先生のご協力のもと、多様な災害発災時の医療提供体制やそれらを担う薬剤師をはじめとした医療従事者の教育研修に関する動画配信を行い好評を博した。さらに、メディカルセミナーも30セッション開催され、いずれのセッションも多くの参加者が視聴する盛況ぶりであった。

単位認定に関しては、WEB開催での研修単位シール交付方法に従い、日本医療薬学会医療薬学専門薬剤師、がん専門薬剤師、薬物療法専門薬剤師、地域薬学ケア専門薬剤師の単位認定を行った。日病薬病院薬学認定薬剤師制度の研修単位シールの発行については10,290名が申請を行うことができた。一方、日本薬剤師研修センターについては録画配信が単位として認められないことから、本年会では受講シールの発行は断念した。

集合開催の要望も多く完全WEB開催への変更は苦渋の決断であったが、2日間開催でも例年と同等数の講演・シンポジウム、さらに2020・2021年の各種受賞講演をライブ配信で開催できたこと、約1か月半のオンデマンド配信により非常に多くの参加者にプログラムをご視聴いただいたこと等、オンラインの利点を生かした年会を開催することができた。反省点としては、急速な感染拡大のため完全WEB開催への変更の決断・通知が遅れたこと、想像を超えた視聴アクセス数により一部セッションの視聴が困難な状況となったことなどを挙げる。依然として、年会で本来実施すべき懇親会、市民公開講座などの企画を断念せざるを得ない状況ではあったが、年会関係者・学会関係者の熱意、年会発表者・参加者のご理解・ご協力により、コロナ禍での新しい形式での年会を提案・開催することで将来的な医療薬学の発展に貢献することができた。大きな混乱もなく盛会のうちに終わることができたのは、日本医療薬学会理事会・事務局のご支援と、組織委員・実行委員・学会運営事務局など本年会開催に関わった全ての皆様のご尽力の賜物であり感謝申し上げる。

9. 医療薬学公開シンポジウム

(1) 第77回医療薬学公開シンポジウム

医療環境の変化に対応した薬剤師職能の発揮～成果創出にどう繋げるか～

開催日 2021年1月24日(日)

開催形式 集合開催、WEB開催(ライブ配信)

特別講演

座長：岐阜薬科大学 薬物動態学研究室 教授 北市 清幸

「薬学が真に医療に貢献すること

～誰のための教育・研究か?：臨床系教員の独り言～

北海道医療大学 薬学部 教授(前北海道大学病院 薬剤部長) 井関 健

シンポジウム

座長：大垣市民病院 薬剤部長 吉村 知哲

：岐阜大学医学部附属病院 薬剤部長 鈴木 昭夫

「重症病態患者への薬剤師の関わりと臨床研究によるエビデンスの創出」

大垣市民病院 種田 靖久

「がん化学療法において薬剤師が持つべき Creativity」

岐阜大学医学部附属病院 藤井 宏典

「抗菌薬適正使用における薬剤師の活動とそのアウトカム」

大垣市民病院 大橋 健吾

「地域包括ケアシステムの1ピースとして ～在宅の現状と薬剤師の介入について～」

エース薬局 大森 智史

「Pharmaceutical Intervention Records(薬学的介入報告)事業の実施による

薬剤師職能の見える化」

すずの木薬局 鈴木 学

◆参加人数 341名

(2) 第79回医療薬学公開シンポジウム

これからの地域における薬剤師の役割を考える

開催日 2021年6月13日(日)

開催形式 WEB開催(ライブ配信)

特別講演 I

座長：岩手県薬剤師会 会長 畑澤 博巳

「薬局薬剤師が行う地域連携 ～地域連携のタネの撒き方、育て方～」

帝京平成大学薬学部 教授 小原 道子

特別講演 II

座長：みちのく愛隣協会 東八幡平病院 技管兼薬剤科長

(前 岩手県立中央病院薬剤部 薬剤部長) 工藤 琢身

「地域につなぐ薬物療法と薬剤師の役割 ～ツールの活用と具体例～」

神戸市立医療センター中央市民病院薬剤部 副部長 池末 裕明

シンポジウム

座長：岩手医科大学薬学部 教授・附属病院薬剤部 薬剤部長 工藤 賢三

「病院薬剤師と薬局薬剤師の連携を構築した手法～釜石地域の特徴を活かして～」

釜石薬剤師会 副会長 中田 義仁

「病院と保険薬局間の情報共有に対して我々がなすべきこと～病院薬剤師の立場から～」

岩手県立中央病院薬剤部 主査薬剤師 高橋 典哉

「病院と薬局が連携したがん薬物療法管理を目指して、はじめの一步とこれからやるべきこと」

岩手医科大学附属病院薬剤部 主任薬剤師 二瓶 哲

◆参加人数 222 名

(3) 第 81 回医療薬学公開シンポジウム

がん薬物療法・緩和医療における薬剤師の役割～広がる薬剤師の多職種連携・病診薬連携～

開催日 2021 年 8 月 7 日（土）

開催形式 WEB 開催（ライブ配信）

基調講演

座長：宮崎大学医学部附属病院 薬剤部 副薬剤部長 奥村 学

「がん薬物治療管理の現状と展望 ～薬剤師としていかに関わるか～」

鹿児島大学病院 教授・薬剤部長 武田 泰生

シンポジウム

座長：宮崎県立日南病院 薬剤部長 岩切 詩子

：独立行政法人地域医療機能推進機構 宮崎江南病院 薬剤部長 伊東 健一

「病診薬連携による抗がん薬副作用マネジメントの有用性」

宮崎大学医学部附属病院 薬剤部 副薬剤部長 関屋 裕史

「多施設連携による抗がん薬曝露対策の推進 ～SMILES の取り組み～」

福岡徳洲会病院 薬剤部長 渡邊 裕之

「がんと地域連携～連携充実加算を中心に～」

大分大学医学部附属病院 薬剤部 副薬剤部長 龍田 涼佑

「保険薬局薬剤師に求められる役割」

（一社）都城市北諸県郡薬剤師会 会長 落合 晋介

「薬局での経験を活かした病薬学連携・育薬研究」

熊本大学大学院生命科学研究部 臨床薬理学分野 准教授 近藤 悠希

特別講演

座長：宮崎大学医学部附属病院 教授・薬剤部長 池田 龍二

「がんチーム医療において薬剤師力を発揮するための戦略」

大垣市民病院 薬剤部長 吉村 知哲

◆参加人数 255 名

(4) 第 82 回医療薬学公開シンポジウム

AI・ICT と共存し歩む薬剤師業務の今後の展望

開催日 2021 年 8 月 28 日（土）

開催形式 集合開催及び WEB 開催（ライブ配信）

特別講演

座長：広島大学病院 教授・薬剤部長 松尾 裕彰

「AI・ICT活用において薬剤師業務を安全に推進するために克服すべき課題」

一般社団法人 医薬品安全使用調査研究機構 設立準備室 室長 土屋 文人

シンポジウム

座長：独立行政法人 広島市立病院機構 本部事務局 契約課専門員 開 浩一

：JA尾道総合病院 薬剤部 薬剤部長 堀川 俊二

「医療情報のこれからと薬剤師－電子処方箋・電子版お薬手帳のこれからと留意点－」

奈良県立医科大学附属病院 薬剤部 薬剤部長 池田 和之

「情報通信技術（ICT）を活用した、医薬品情報と薬学的介入事例の管理

－クラウド型医薬品情報管理プラットフォーム「AI-PHARMA（アイファルマ）」の活用事例－」

岡山大学病院 薬剤部

人工知能応用メディカルイノベーション創造部門 神崎 浩孝

「電子お薬手帳と広島県HMネット」

公益社団法人 広島県薬剤師会 副会長 豊見 敦

「薬業連携に活かすHiMEネット ～SNSを利用した保険薬局との連携～」

愛媛大学医学部附属病院 薬剤部

薬剤師外来・総合診療サポートセンター兼任 越智 理香

◆参加人数 457名

(5) 第83回医療薬学公開シンポジウム

コロナ禍における薬剤師の役割と地域医療連携の充実化に向けた取り組み

開催日 2021年10月17日（日）

開催形式 WEB開催（ライブ配信）

シンポジウム1「コロナ禍における薬剤師の役割」

座長：札幌医科大学附属病院 薬剤部 副部長 藤居 賢

：北海道科学大学 薬学部 教授 佐藤 秀紀

「コロナ禍における病院薬剤師の役割」

札幌医科大学附属病院 薬剤部 石郷 友之

「コロナ禍における感染制御部専従薬剤師の役割」

北海道大学病院 薬剤部 感染制御専門薬剤師 鏡 圭介

「コロナ禍における薬学教育・実務実習の現状と大学の役割」

北海道科学大学 薬学部 教授 山下 美妃

シンポジウム2「地域医療連携の充実化に向けた取り組み」

座長：北海道医療大学病院 薬剤部 薬局長 岩尾 一生

：十仁薬局 代表取締役 野田 敏宏

「医薬品情報でつなぐ地域医療連携」

JCHO札幌北辰病院 薬剤部 主任 門村 将太

「トレーシングレポートでつなぐがん化学療法における地域医療連携」

札幌医科大学附属病院 薬剤部 主査 山崎 将英

「在宅医療でつなぐ地域医療連携」

まつもと薬局 大野 伴和

特別講演

座長：札幌医科大学附属病院 教授・薬剤部長 福土 将秀

「今、薬剤師の覚悟が問われている：キーワードは連携」

神戸大学医学部附属病院 教授・薬剤部長 矢野 育子

◆参加人数 326 名

(6) 第 84 回医療薬学公開シンポジウム

薬剤師によるがん治療の最前線

開催日 2021 年 11 月 14 日 (日)

開催形式 WEB 開催 (ライブ配信)

特別講演 I

座長：社会福祉法人 埼玉医大福祉会 医療型障害児入所施設 カルガモの家

薬剤部 部長 岸野 亨

「がん薬物療法における薬剤師の役割

～ファーマコメトリクスを活用した薬物治療の最適化への挑戦～」

埼玉医科大学国際医療センター 薬剤部 教授・薬剤部長 牧野 好倫

特別講演 II

座長：埼玉県立がんセンター 薬剤部 副技師長 中山 季昭

「薬剤師による研究と論文執筆のお作法」

群馬県立がんセンター 薬剤課長 藤田 行代志

シンポジウム

座長：城西大学 薬学部 教授 大嶋 繁

「PKPD モデルによるアムルビシンのレジメン評価と治療最適化に向けて」

静岡県立静岡がんセンター 薬剤部 PGY1 伊藤 和磨

「地域医療に貢献するためのがん薬学連携の取り組み」

上尾中央総合病院 薬剤部 国吉 央城

「保険薬局のがん治療への取り組み」

マツモトキヨシ埼玉伊奈店 薬局長 照屋 千津子

「化学療法による好中球減少と過大腎排泄の関係性を考慮した抗菌薬の治療最適化

—薬学連携による取り組みを例に—」

日本薬科大学 臨床薬学分野 講師 佐古 兼一

◆参加人数 372 名

10. 臨床研究セミナー

第 1 回 臨床研究セミナー 『臨床研究を始めよう』

開催日 2021 年 4 月 18 日 (日)

開催形式 WEB 開催 (ライブ配信)

基調講演 1

座長：菅原 満（北海道大学大学院薬学研究院）
「日常業務の疑問から行う臨床研究～未来の患者さんのために～」
寺田 智祐（京都大学医学部附属病院 教授・薬剤部長）

基調講演 2

座長：石崎 純子（金沢大学医薬保健研究域薬学系）
「論文をまとめるために押さえておきたいこと」
田崎 嘉一（旭川医科大学病院 教授・薬剤部長）

教育講演 1

座長：鈴木 小夜（慶應大学薬学部）
「研究計画書の作成時に意識したいポイントのいろは」
五百蔵 武士（神戸大学医学部附属病院 薬剤部・臨床研究推進センター）

シンポジウム「研究を進める際に苦労したことと、克服するための Tips」

座長：鈴木 貴明（千葉大学医学部附属病院 薬剤部）
：矢野 貴久（島根大学医学部附属病院 薬剤部）
「心臓移植後免疫抑制療法最適化を目指した臨床薬学研究の実践」
宇野 貴哉（国立研究開発法人国立循環器病研究センター 薬剤部）
「はじめての臨床研究 ～論文を投稿するまでの道のり～」
白髪 恵美（HITO 病院 薬剤部）
「中小病院の薬剤師でも出来る大学病院薬剤部や大学薬学部との連携研究」
宇野 裕基（金沢市立病院 薬剤室）
「データマイニング手法を用いた医薬品副作用発現リスクの定量的評価モデルの
開発～社会人博士課程 5 年間で振り返って、苦難の 3 年間と逆襲の 2 年間～」
今井 俊吾（北海道大学大学院 薬学研究院）

◆参加人数 469 名

1 1. 第 4 回フレッシュャーズ・カンファランス

開催日 2021 年 6 月 7 日（月）～13 日（日）
開催形式 WEB 開催（ライブ配信）
演題数 口頭発表 30 題
教育講演 「フレッシュャーズに伝えたい、医療薬学研究の進め方と論文投稿」
大阪大学医学部附属病院 薬剤部 教授・薬剤部長 奥田 真弘

◆参加人数 134 名（正会員 79 名、一般 7 名、学生会員 21 名、一般学生 27 名）

1 2. がん専門薬剤師集中教育講座

(1) 1 回目（WEB 開催（オンデマンド配信））

配信期間 2021 年 1 月 12 日（火）～2 月 7 日（日）

・プログラム

「がんの発生、転移、薬剤耐性」国立がん研究センター研究所 がん分化制御解析分野
分野長 岡本 康司

「安全ながん薬物療法の実践」国立研究開発法人日本医療研究開発機構

シーズ開発・研究基盤事業部 拠点研究事業課 主幹 野村 久祥

- 「抗がん剤の臨床薬理」慶應義塾大学医学部 臨床薬理学 教授 谷川原 祐介
「がん薬物療法の臨床試験」国立がん研究センター東病院 薬剤部
副薬剤部長 米村 雅人
- 「悪性リンパ腫の薬物療法」九州大学病院 血液腫瘍内科 助教 森 康雄
「肺がんの薬物療法」九州大学病院 呼吸器科 助教 岩間 映二
「乳がんの薬物療法」九州大学病院 第一外科 臨床・腫瘍外科(乳腺外科) 准教授 久保 真
「大腸がんの薬物療法」九州大学病院 第二外科 消化器・総合外科 診療准教授 沖 英次
「皮膚がんの薬物療法」九州大学病院 皮膚科学教室 講師 伊東 孝通
「胃がんの薬物療法」済生会福岡総合病院 がん治療センター
センター長兼外科部長 江見 泰徳
- 「白血病・多発性骨髄腫」九州大学病院 血液腫瘍内科 助教 吉本 五一
「頭頸部がんの薬物療法」公益財団法人がん研究会 有明病院 総合腫瘍科
部長、副院長 高橋 俊二
- 「肝臓、胆道、膵臓がんの薬物療法」国立がん研究センター中央病院 肝胆膵内科
科長 奥坂 拓志
- 「支持療法」国立がん研究センター中央病院 薬剤部 主任薬剤師 渡部 大介
「緩和医療とがん疼痛治療」日本医科大学多摩永山病院 薬剤部 部長 高瀬 久光
- ◆参加人数 2,205名

(2) 2回目 (WEB 開催 (オンデマンド配信))

配信期間 2021年11月1日(月)～12月28日(火)

・プログラム

【必須11講座】

- 「がん薬物療法の臨床薬理」昭和大学 先端がん治療研究所 准教授 今村 知世
「支持療法」国立がん研究センター がん対策情報センター がん医療支援部 齋藤 義正
「がん薬物療法と臨床試験」国立がん研究センター中央病院 国際開発部門
部門長 中村 健一
- 「安全ながん薬物療法の実践」社会福祉法人 京都社会事業財団 京都桂病院 薬剤科
係長 土手 賢史
- 「緩和医療とがん疼痛治療」長崎大学病院 薬剤部 室長 龍 恵美
「がんの発生、転移、薬剤耐性」公益財団法人がん研究会 有明病院
がん化学療法センター 所長 藤田 直也
- 「乳がんの薬物療法」公益財団法人がん研究会 有明病院
副院長 乳腺センター長 大野 真司
- 「肺がんの薬物療法」九州大学病院 呼吸器科 助教/
がんセンター 外来化学療法室 岩間 映二
- 「大腸がんの薬物療法」国立がん研究センター中央病院 消化器内科 医長 高島 淳生
「胃がんの薬物療法」九州大学病院 消化器・総合外科(第二外科)
診療准教授 沖 英次
- 「悪性リンパ腫の薬物療法」九州大学病院 血液・腫瘍・心血管内科 助教 森 康雄

【選択(8講座中4講座以上)】

「泌尿器がんの薬物療法」埼玉医科大学国際医療センター 泌尿器腫瘍科

准教授 金尾 健人

「皮膚腫瘍」埼玉医科大学国際医療センター 皮膚腫瘍科・皮膚科 教授 中村 泰大

「婦人科領域がんの薬物療法」公益財団法人がん研究会 有明病院 婦人科 医長/

総合腫瘍科 副医長 温泉川 真由

「小児がんの薬物療法」大阪市立総合医療センター 小児血液腫瘍科 医長 山崎 夏維

「頭頸部がんの薬物療法」公益財団法人がん研究会 有明病院 副院長/

総合腫瘍科 部長 高橋 俊二

「放射線腫瘍学」国立がん研究センター中央病院 放射線治療科 医長 村上 直也

「肝臓、胆道、膵臓がんの薬物療法」公益財団法人がん研究会 有明病院 肝胆膵内科

副部長 佐々木 隆

「白血病・造血幹細胞移植」大阪国際がんセンター 血液内科 診療主任/

AYA 世代サポートチーム 多田 雄真

◆参加人数 2,872 名

1.3. がん専門薬剤師全体会議

第8回 がん専門薬剤師全体会議

開催日 2021年5月8日(土)

会場 名古屋コンベンションホール メインホールA・WEB開催(ライブ配信)併用
セッション1

「irAE マネジメント ～ 一歩その先へ～」

座長: 鮎原 秀明、有馬 純子、村上 通康

「急性期総合”非がん専門”病院の救急外来における ICI 投与患者への対応標準化」

平手 大輔(手稲溪仁会病院 薬剤部)

「irAE 情報共有システムと適応外使用申請」

後藤 愛実(大阪医科薬科大学附属病院 薬剤部)

「irAE サポートプログラムの有用性」

原田 伸彦(竹田総合病院 薬剤科)

「院内チーム ICI の活動から見えてきた、irAE マネジメント地域連携の必要性」

南 晴奈(九州大学病院 薬剤部)

ランチョンセミナー(中外製薬株式会社 共催)

座長: 谷川原 祐介(慶應義塾大学 殿町先端教育連携スクエア)

「わかりやすい!! がんゲノム医療のポイント教えます」

佐竹 悠良(関西医科大学附属病院 がんセンター 学長特命准教授)

セッション2

「がんゲノム医療の本音を語る。薬剤師はいったい何ができるのか?」

座長: 高田 慎也、谷川原 祐介、藤田 行代志

「がんゲノム医療中核拠点病院における薬剤師兼がんゲノム医療コーディネーターの活動

～ “ワタシ” の場合～」

竹野 美沙樹(国立がん研究センター東病院 薬剤部)

「がんゲノム医療連携病院における薬剤師の関わり」

藤原 大一朗 (日本赤十字社和歌山医療センター 薬剤部)

「事前アンケート結果の紹介」

藤田 行代志 (群馬県立がんセンター 薬剤部)

セッション3

「高齢者へのがん化学療法をどう考えるか」

座長：原田 知彦、松尾 宏一、三宅 知宏

基調講演 「高齢者へのがん薬物療法をどう考えるか」

安藤 雄一 (名古屋大学医学部附属病院 化学療法部)

「高齢者機能評価を活用した有害事象予測」

内山 将伸 (福岡大学筑紫病院 薬剤部)

「高齢者の薬物動態」

宮本 康敬 (浜松医療センター 薬剤部)

イブニングセミナー (大鵬薬品工業株式会社 共催)

医療連携構築のための専門薬剤師の役割～経口抗がん薬治療や制吐療法を中心に～

座長：佐野 元彦 (星薬科大学 実務教育研究部門)

「保険薬局との連携とこれからの支持療法」

橋本 浩伸 (国立がん研究センター中央病院 薬剤部)

「薬薬連携における薬局薬剤師の取組み (経口抗がん薬レジメンを中心として)」

上田 雅之 (日本調剤築地薬局)

◆参加人数 489名 (現地参加：26名、WEB参加：463名)

1.4. 薬物療法専門薬剤師集中講義

(1)第1回 (WEB開催 (オンデマンド配信))

配信期間 2021年2月22日 (月)～3月21日 (日)

・プログラム

「うつ病・躁病」筑波大学附属病院 精神神経科 診療講師 井出 政行

「薬物依存」湘南医療大学 薬学部設置準備室 特任教授 鈴木 勉

「てんかん」医療法人財団明理会 行徳総合病院 てんかんセンター センター長/

脳神経外科 峯 清一郎

「SLE」東京医科歯科大学 膠原病・リウマチ内科学 教授 保田 晋助

「高血圧症」横浜市立大学附属市民総合医療センター 腎臓・高血圧内科

病院長補佐/部長 平和 伸仁

「心不全」千葉大学医学部附属病院 循環器内科 助教 岩花 東吾

「CKD」筑波大学医学医療系 臨床医学域 腎臓内科学 准教授 齋藤 知栄

「子宮内膜症」東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科

茨城県小児・周産期地域医療学講座 准教授 石川 智則

「潰瘍性大腸炎・クローン病」東京医科歯科大学医学部附属病院

臨床試験管理センター 准教授 長堀 正和

「糖尿病」国際医療福祉大学 医学部 糖尿病・代謝・内分泌内科学 主任教授 竹本 稔

「深在性真菌症」千葉大学真菌医学研究センター 臨床感染症分野 准教授 渡邊 哲

「造血幹細胞移植」国際医療福祉大学 医学部 血液内科学 主任教授 中世古 知昭

◆参加人数 1,410名

(2) 第2回 (WEB開催 (オンデマンド配信))

配信期間 2021年12月1日(水)～2022年1月31日(月)

・プログラム

「膠原病に伴う間質性肺疾患」広島大学大学院 救急集中治療医学 准教授 大下 慎一郎

「妊娠全般」筑波大学医学医療系 総合周産期医学 准教授 小島 真奈

「薬物療法におけるEBM」医療法人社団徳仁会 中野病院/

NPO法人アヘッドマップ 青島 周一

「薬物相互作用リテラシー」東京大学医学部附属病院 薬剤部 副薬剤部長 大野 能之

「慢性閉塞性肺疾患(COPD)」東京医科歯科大学病院 呼吸器内科 助教 柴田 翔

「冠動脈疾患患者に対する抗血栓療法」国立循環器病研究センター 副院長/

心臓血管内科 部長 野口 暉夫

「脂質異常症」地方独立行政法人りんくう総合医療センター りんくうウェルネスケア

研究センター センター長 健康管理センター 副センター長 増田 大作

「血友病」九州大学病院 総合周産期母子医療センター (小児科) 助教 石村 匡崇

「鼻アレルギー」山梨大学大学院総合研究部医学域

耳鼻咽喉科・頭頸部外科 教授 櫻井 大樹

「消化性潰瘍」千葉大学医学部附属病院 消化器内科 講師 松村 倫明

「慢性腎臓病」千葉大学医学部附属病院 腎臓内科 講師 相澤 昌史

「肝硬変」千葉大学医学部附属病院 肝胆膵外科 講師 久保木 知

◆参加人数 992名

1.5. 関係団体への協力 (本学会役員)

- 1) 一般社団法人薬剤師認定制度認証機構 奥田真弘：理事
- 2) 一般社団法人日本医療安全調査機構 医療事故調査制度への協力学会として登録
奥田真弘：統括責任者
- 3) 文部科学省・薬学系人材養成の在り方に関する検討会 奥田真弘：委員

〔2〕 組織運営の部

2022-2023 年度 役員を選出

2021 年 11 月に投票を実施した役員候補者選挙において 14 名の理事候補者と 1 名の監事候補者が当選した。2022 年 3 月 18 日の第 14 回定時社員総会において推薦理事候補を加えた新役員 23 名（理事 20 名、監事 3 名）の選任決議を実施する。本決議の結果、新理事及び監事への選任が了承された際には、同総会の終結時から任期 2 年に亘って就任する。

事業報告附属明細書

(2021年1月1日～2021年12月31日)

1. 役員 (2020年5月27日第12回定時社員総会終了後から就任)

会頭

奥田 真弘 大阪大学医学部附属病院

副会頭

武田 泰生 鹿児島大学病院

山田 安彦 東京薬科大学薬学部

山本 康次郎 群馬大学医学部附属病院

理事

石井 伊都子 千葉大学医学部附属病院

石澤 啓介 徳島大学病院

出石 啓治 いずし薬局

大谷 壽一 慶應義塾大学

河原 昌美 愛知学院大学薬学部

吉光寺 敏泰 MeijiSeika ファルマ株式会社

崔 吉道 金沢大学附属病院

齋藤 秀之 熊本大学病院

齋藤 嘉朗 国立医薬品食品衛生研究所

鹿村 恵明 有限会社 グッドファーマシー

田崎 嘉一 旭川医科大学病院

寺田 智祐 京都大学医学部附属病院

富岡 佳久 東北大学大学院薬学研究科

村木 優一 京都薬科大学

百瀬 泰行 国際医療福祉大学

矢野 育子 神戸大学医学部附属病院

監事

大森 栄

佐々木 均 長崎大学病院

望月 眞弓 慶應義塾大学

2. 事務局 (2021年12月31日現在)

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2丁目12-15 日本薬学会長井記念館7階

事務局長1名、職員4名、契約職員1名、その他派遣職員2名

以上、敬称略